

## 令和4年度近江米振興協会主催「水田農業振興フォーラム」の参加者からの意見等について

No.	項目	内 容	回 答	備 考
1	「びわほなみ」	「びわほなみ」に赤かび病抵抗性を付与することは可能でしょうか。	「びわほなみ」への赤かび病抵抗性付与については、西日本農研センターに依頼し、現在取り組んでいただいているところです。しかし、技術的に困難な一面があるとも伺っており、近い将来の育成が約束されたものではありません。	
2	「びわほなみ」	「びわほなみ」を栽培しておりますが、2月末～3月頃から雑草の発生が急増し、雑草対策に苦労しています。今後、フォーラムでも、麦・大豆の雑草対策等を検討していただきたいです。	雑草対策につきまして、前年度の種子が残った場合、雑草の発生量は年々増加していきます。そのため、栽培暦に基づき、適切な雑草防除の実施を心掛けるとともに、除草剤の効果を発揮させるためにも排水対策の徹底を心がけてください。雑草対策については、今後のテーマの一つとしても検討していきたいと思っております。	
3	「びわほなみ」	「びわほなみ」関連の製品が一般販売される時期はいつ頃になりますか。	既に「びわほなみ」の小麦粉を使用した商品について、パン、洋菓子、お好み焼き等で使用していただいております。今後も「びわほなみ」関連商品は増加すると思われるので、随時情報提供をさせていただきます。	
4	「びわほなみ」	「びわほなみ」の栽培について、多量の肥料を投入すると収量増加につながることは分かりました。一方、麦収穫後、投入された肥料は大豆作にも影響しますか。	麦作で穂肥時期等の生育後半に施用された肥料は、麦に効率的に吸収されるため、ほ場に残る量は少ないと思われます。一部残存した肥料については、大豆作でも利用可能と考えられます。なお、肥料を多量に投入した場合、環境への影響も懸念されることから、注意が必要です。	
5	「滋賀83号」	「滋賀83号」について、関係団体等での販売やPRの取組を教えてください。	令和6年産米での本格デビューに向けて、YoutubeやSNS等を活用し、育成者のインタビュー等の動画を公開する等、農業者や消費者の皆様幅広く取り組みを周知しています。また、販売の取組については現在検討中ですが、農業者等がこだわった栽培法等を自らPRされるとも伺っています。	
6	「滋賀83号」	「滋賀83号」について、栽培のハードルが高いと感じました。	「滋賀83号」につきましては、農業者のみなさまがオーガニック農業に取り組むきっかけとなる「品種」と位置づけしており、栽培技術を磨く等して、多くの方が「滋賀83号」の栽培に取り組んでいただきたいと考えています。	